

令和6年
10月発行



人権だより 第46号 ふれあい

鳴門市ドイツ館・ 鳴門市賀川豊彦記念館を訪ねて

7月24日（水）、徳島県鳴門市の「鳴門市ドイツ館」と「鳴門市賀川豊彦記念館」に、36名で研修視察に行ってきました。

はじめに行った鳴門市ドイツ館には、第一次世界大戦当時、鳴門市にあった「板東俘虜収容所」というドイツ兵俘虜（注）が収容されていた施設についての展示がされています。ここは、人道的な管理方針から世界でも類を見ない模範収容所と評されたところです。ここにいたドイツ兵俘虜は、元々持っていた優れた技術を生かして様々な活動に取り組み、商業、スポーツ、文化活動などを盛んに行って自主的な生活を送っていました。また、日本兵や地域住民との交流を深め、自分たちの技術を伝えて、地域住民から「ドイツさん」と親しみをもって呼ばれるほどでした。

これほど自由で、これほど地域住民との交流が図られ、「模範収容所」と呼ばれるようになったのには、会津出身の収容所長 松江豊寿の運営姿勢、堪能なドイツ語を用いた高木繁副所長のパイプ役としての働き、お遍路さんをもてなす風習のあった地域住民の土地柄が影響していると、ドイツ館館長から説明を受けました。

次に行った鳴門市賀川豊彦記念館は、その生涯を友愛、互助、平和のために捧げた賀川豊彦の業績を展示している資料館です。賀川豊彦は、神戸のスラムに移り住んで救済活動を行い、その後、労働運動、普通選挙運動、農民運動、生活協同組合運動の先頭に立ち、関東大震災でも救済活動を行い、戦後は世界平和を訴え、ノーベル平和賞候補に4度、ノーベル文学賞候補に2度なった世界の偉人です。

3名の説明ボランティアの方が来てください、3つのグループに分かれて館内をめぐり、詳しく説明を受けました。話を聞き、その業績を学ぶほどに、賀川豊彦がってきたことに、皆感心していました。

板東俘虜収容所のことも賀川豊彦という人物のことも、どちらかというとあまり知られてはいません。今回、ここへ研修視察として訪れたことを通して、参加者は、当たり前のことが当たり前でなかった時代に人権を守るために活動した人々のことを知り、研修で学んだことを多くの人に伝えて、その人たちが残してくれた今の時代を、まだまだ差別は残っているけれど、少しでも平等になるように、そして皆が平和に暮らせるようにしていきたい、と感じているようでした。

参加者の感想

◆ 今から約100年前にこのような人道的なドラマがあったことを知り、今の時代を支えてきた人々の努力、嘗みにあらためて感謝の気持ちをもちました。この世界、社会をつくるのは人の思い、優しさ、つながりであるということを子どもたちに伝え、今の時代と共に作り、笑顔あふれる未来を目指したいです。

◆ 日本人の温かい、優しいもてなしの心に触れると同時に、ドイツ人の明るくて陽気な心、合理的にとらえて収容所をユートピアに変えていく知恵、日本とドイツの今まで知らなかった面が勉強でき感謝しています。

◆ 賀川豊彦の偉大さを初めて知り、びっくりしました。結核の病苦になってしまって貧しい人のため、労働運動、生活改善運動などを起こし、また平和運動を盛り上げ、社会福祉に取り組むなどして、現代の礎となしたことなど、大変感動しました。

◆ 一人の人間のパワフルでエネルギーッシュな姿勢に加えて、弱者救済に一生を捧げた生きざまに感動を覚えました。賀川豊彦の生き方には勇気づけられ、久しぶりに心の琴線に觸れました。

◆ とても有意義な研修でした。人のために役に立つ、思いやり、感謝する心、人に尽くすなど、忘れていた気持ちを改めて思い起こす研修でした。

◆ 厳しい時代に愛をもって多数の人を助け接した人を知ることができました。今まで知らなかったことが申し訳ないように思いました。

（注） 俘虜とは、捕虜のことです。

令和7年
3月発行

人権だより 第47号

ふれあい

人権學習推進委員会研修会



令和7年1月9日（木）に、児島中学校区人権學習推進委員会並びに研修会を実施しました。

研修会では、5つのグループに分かれ、ワークショップ「様々な人権課題から誰もが過ごしやすい避難所を考える」という研修を行いました。避難所生活では、通常の生活中では感じしたことのない不安やストレスを感じると言われており、特に女性、子ども、高齢者、障がいのある人、外国人等の生活上の困難は、さらに大きくなります。

参加した推進委員の皆様は、和やかな雰囲気の中でお互いの話をうなずきながらしっかりと聞き、誰もが過ごしやすい避難所生活について、特に生活上の困難を抱える人たちの立場になって、想像力を働かせて話し合い、アイデアを出し合って、新たな気づきや学びを得ていきました。



参加者の感想

様々な視点に気づき、相手の立場になって考えることが大切だと思いました。

高齢者、女性など自分と異なる立場に立って考えると、様々な事情の人がいて、いろいろな問題があることが分かりました。

皆さんボランティア精神、奉仕の精神に熱い人ばかりで、居心地が大変よかったです。

世代、性別など自分と異なるいろいろな方と話す中で、多くの気づきがありました。

避難所運営について、人権という視点から具体的に深く考えることができて大変よかったです。

災害時は自分のことで精一杯になりがちだが、まわりの方々に目を向ける大切さが分かり勉強になりました。

倉敷市児島中学校区
人権學習推進委員会

倉敷市児島公民館
倉敷市児島味野2-2-38
TEL.472-7423

発行

事務局

異国文化ふれあい料理教室

令和6年10月26日（土）、児島市民交流センターで、児島中学校区人権学習推進委員会主催の異国文化ふれあい料理教室を行いました。

20回目の今年は、ペルーご出身の講師の方に来ていただき、ペルーの代表的な料理、パパ・ア・ラ・ワンカイナとチチャ・モラダを作りました。パパ・ア・ラ・ワンカイナとは茹でたジャガイモにチーズを使ったソースをかけた料理で、チチャ・モラダとは紫トウモロコシを主原料にしたジュースです。



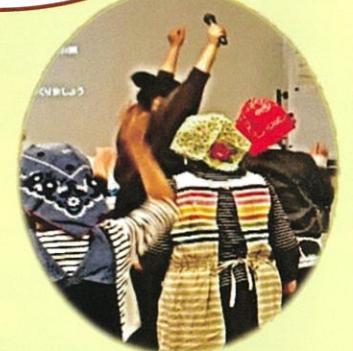
カティア・ワマン 先生



ソースになるよ
ジュースになるよ



はじめに、講師からペルーの民族ダンスを教えてもらって一緒に踊り、リラックスして始めました。一番驚いたのが、材料の分量が決まっていないことです。量は作り手



次第、それがそれぞれの家庭の味になっているのだそうです。少し戸惑いましたが、どのグループも話し合い協力しながら調理していくことで、明るい雰囲気の中でおいしいペルー料理ができました。とてもおいしくて、みんな笑顔になりました。



会食をしながら聞いた講師の先生のお話もとても楽しく、地球の反対側にあるペルーの、しかも山岳地帯の文化は初めて知ることばかりで、視野を広げる有意義な時間となりました。参加者からは、今回学んだことを自分が所属する団体や地域に広めていきたいという声がありました。これからもこの事業を続けながら、すべての人たちと互いの違いを理解し尊重し合える関係を築いていけるようにしていきたいです。



私から一言 人権問題について思うこと

児島学区婦人会 会長 中塚 三与

みんなちがって
みんないい



私にとって人権といえば、部落差別が頭に浮かびます。高校生のとき読んだ住井すゑの「橋のない川」に衝撃を受けました。こんなことがあっていいのかと。でも、いまだに差別の心をもっている人がいるのがとても残念に思います。生まれた場所、育った家庭環境、身体障がい、そういった事に負けないで強く生きていってほしい、そのためにも私たちが理解し、思いやりをもって接していかなければと思っています。

さて、我が家は2階に息子たちが同居しています。日曜日、2階に上がると、息子が台所で朝食を作っています。息子の妻はまだ寝ている様子。なんで息子がと腹立たしく思いました。食事の支度は、息子の妻がするのが当たり前と思っていました。でも、よく考えると、これも差別です。共働きなので、夫婦が助け合って当たり前だと、私も古いなと反省しました。

今、私はぎっくり腰が酷く、洗い物から風呂掃除、洗濯と、夫がすべてやってくれています。思いやりの心があれば、差別などなくなると信じています。

金子みすゞの詩集に「みんなちがって、みんないい」という言葉が載っています。すばらしい言葉です。その人の気持ちになって理解し、助け合っていくことで、差別はなくなると思います。そうやって、住みよい社会になることを願っています。

人権標語・人権ポスター・人権作品の展示



第76回人権週間（令和6年12月4日（水）～12月10日（火））に合わせて、児島市民交流センターに稗田幼稚園の園児、児島小学校・緑丘小学校の児童、児島中学校の生徒の皆さんがあつた人権標語・人権ポスター・人権作品を展示しました。どの作品も、身の回りにある人権問題を「誰か」のことではなく、「自分」のこととして考え、お互いを尊重し合うことの大切さを訴えるすばらしいものでした。期間中、多くの方が見に来られました。

★人権だより「ふれあい」の児島中学校区配布につきましては、自治会の皆様に大変お世話になっております。

発行

倉敷市児島中学校区人権学習推進委員会（事務局：倉敷市児島公民館）
〒711-0913 倉敷市児島味野2-2-38 TEL: 086-472-7423